

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 5月17日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26285106

研究課題名(和文) テレビアーカイブに見る戦後日本イメージの形成と変容

研究課題名(英文) Images of Postwar Japan in Television Archives

研究代表者

丹羽 美之 (NIWA, YOSHIYUKI)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号：00366824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本テレビ系列の全国29局が制作するNNNドキュメントは、日本のテレビで最も長い歴史を持つドキュメンタリー番組である。1970年の放送開始以来、これまでに放送された本数は約2200本にも上る。これらは日本の現代史・放送史の貴重な記録である。本研究では、これらの記録を次世代に引き継ぐために、NNN各局の全面的な協力のもと、全番組をデジタルアーカイブ化し、詳細な番組データベースを作成した。またこれらを活用して、テレビが戦後日本の転換期をどのように記録してきたかを明らかにした。その成果は『NNNドキュメントクロニクル(仮)』として2019年に東京大学出版会より出版予定である。

研究成果の概要(英文)：The NNN Document series produced by 29 stations nationwide in the NNN(Nippon News Network) is the documentary program with the longest history in Japanese television. Since the start in 1970, the number of broadcasts so far has reached about 2,200. These are valuable records of Japanese contemporary history and broadcast history. In this research, in order to take over these records to the next generation, we digitally archived all the programs, and created a detailed program database, under full cooperation with NNN stations. We also made use of these to explore how television recorded the turning point of postwar Japan. The result will be published by the University of Tokyo Press in 2019 as "NNN Document Chronicle (Tentative)".

研究分野：社会学

キーワード：テレビ マスメディア ドキュメンタリー ジャーナリズム 映像 アーカイブ 戦後日本 地域

1. 研究開始当初の背景

日本でテレビ放送がはじまって 60 年以上が経った。これまでに膨大な数のテレビ番組が制作・放送されてきた。これらは放送史の貴重な記録であるだけでなく、戦後日本の社会やそこに生きる人びとを記録してきた一級のドキュメントでもある。しかし、これまで日本ではテレビ番組のアーカイブが貧困だったこともあって、テレビ番組を活用した放送史・現代史の研究は欧米の諸外国に比べて遅れていた。近年、NHK アーカイブスや放送ライブラリーなどの環境整備が進み、日本でもテレビ番組を活用した研究・教育がようやく活性化しつつある。

しかし、いくつかの重要な課題もある。第 1 は民放アーカイブの貧困である。現在のところ、NHK に比べて民放アーカイブの整備・公開は大幅に遅れている。公開が進まない民放については、活用は依然として停滞したままである。このままでは（少なくとも研究・教育の世界では）民放の歴史はなかつたことにされてしまうだろう。第 2 はローカル番組アーカイブの貧困である。現在のテレビアーカイブは、中央集権化した放送産業の実態を反映して、東京発の番組に偏っている。このままでは、放送史・現代史は東京中心に語られ、地域の多様な視点が抜け落ちてしまう恐れがある。こうした課題を乗り越えていくためにも、今後は民放、とりわけローカル番組アーカイブの整備・充実が求められる。

2. 研究の目的

こうした問題意識を背景に、本研究では民放、とりわけローカル番組のアーカイブ整備とその利活用を試みた。そのモデルケースとして取り組んだのが、民放の代表的なドキュメンタリー番組である NNN ドキュメントのデジタルアーカイブ化とその利活用である。日本テレビ系列の全国 29 局が制作する NNN ドキュメントは、民放・NHK を含めて、日本のテレビで最も長い歴史を持つドキュメンタリー番組である。1970 年の放送開始以来、これまでに放送された本数は 2200 本にも上る。日本のテレビ番組で最初に国際エミー賞を受賞した『明日をつかめ！ 貴くん～4745 日の記録～』をはじめ、数多くの優れた番組、個性的な作り手を輩出したことでも知られる。また全国のローカル局が制作に参加する NNN ドキュメントは、地域社会の貴重な記録でもある。

今回、NNN 各局の全面的な協力のもと、NNN ドキュメント全 2200 本をデジタルアーカイブ化し、初めて研究に利用することが可能になった。日本の放送史・現代史の一級の記録である NNN ドキュメントの歴史を体系的に整理することによって、その遺産を次世代に引き継ぐと同時に、それらの番組を改めて見直すことによって、戦後日本の転換期（ポスト高度経済成長期）をテレビがどのように記録してきたのかを明らかにしようとした。NNN ドキュメントをモデルケースにして、民放、と

りわけローカル番組のアーカイブ化とその利活用の可能性を示すことを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、NNN ドキュメントのデジタルアーカイブ化と、それを用いた放送史・現代史の分析を一体的に進めた点に、大きな特色がある。NNN ドキュメントのデジタルアーカイブ化については、まず NNN 各局から現存する資料（番組同録テープ、放送記録、受賞歴など）を提供してもらった。業務用ビデオテープで保存されている番組をデジタルデータに変換し、その他の関連資料も整理・分類した上で、独自の研究用デジタルアーカイブシステムを開発・構築した。

放送史・現代史の分析については、上記のシステムを活用して、詳細な番組データベースを作成すると同時に、実際の番組を視聴しながら、NNN ドキュメントが現代日本をどう記録し、伝えてきたのかをテーマ別に検証していった。研究機関と放送事業者が産学連携的に協力する研究体制を構築することによって、テレビ番組の「保存・整理」と「利活用」を一体的に進め、今後のテレビアーカイブ研究のモデルのひとつとなるように心がけた。

4. 研究成果

(1) NNN ドキュメント研究用デジタルアーカイブシステムの開発

今回、独自に開発した NNN ドキュメント研究用デジタルアーカイブシステムは、研究会メンバー（研究代表者、研究分担者、制作者の他、大学院生約 20 名が参加）がインターネット上で番組を自由に検索・閲覧し、データベースを作成できる画期的なシステムである（図 1）。



図 1 NNN ドキュメント研究用デジタルアーカイブシステムの画面

過去に放送された NNN ドキュメントを研究に利用する場合、これまでは紙の台帳で放送記録を探し出し、業務用ビデオテープに保存された番組を 1 本 1 本再生しなければならな

かったが、このシステムを開発したことによって、番組の検索、閲覧が格段に容易になった。現在、このシステムは NNN 各局でも利用できるようになっており、放送現場で日々の番組制作業務にも役立てられている。

(2) NNN ドキュメント番組データベースの作成
上記の NNN ドキュメント研究用デジタルアーカイブシステムを活用して、NNN ドキュメント全作品のデータベースを作成した。データベースには「放送年月日」「放送枠」などの編成情報、「制作スタッフ」「内容(抄録)」「受賞歴」などの書誌情報を中心に、詳細な項目を設定し、入力を行った(表1)。

・ タイトル	・ 音効
・ 放送年月日	・ ミキサー
・ 放送枠	・ エンドロール
・ 制作局	・ 登場人物
・ ディレクター	・ 内容
・ プロデューサー	・ 主な取材地
・ 撮影	・ キーワード
・ 編集	・ 受賞歴
・ ナレーター	・ 公開の有無

表1 NNNドキュメント番組データベースの項目

このデータベースを整備したことで、全番組を制作局別、制作スタッフ別、テーマ別、取材地別など、関心や目的に応じて縦横に検索できるようになり、番組の活用可能性が飛躍的に高まった。同データベースの一部は、2019年に出版予定の『NNNドキュメントクロニクル(仮)』(東京大学出版会)に収録されるほか、NNNドキュメントの公式ウェブサイトでも公開される予定である。

(3) NNNドキュメントを活用した放送史・現代史の分析

上記の(1)(2)に加えて、NNNドキュメント研究用デジタルアーカイブシステムを活用して、同シリーズが現代日本をどう記録してきたのかを分析・検証する作業にも取り組んだ。NNNドキュメントが扱ってきた対象・テーマは、戦争、平和、公害、環境、災害、原発、教育、労働、少子高齢化、医療、貧困、ジェンダー、外国人・移民、障がいなど、多岐にわたる。しかも、全国のローカル局がそれぞれの地域の問題やテーマを継続的に取材したものが多いため(図2)。これらの番組を研究会メンバーがテーマ別に分担して視聴し、量的・質的に分析した。必要に応じて番組制作者への聞き取り調査や、上映会形式のワークショップも実施した。これらを通して、NNNドキュメントがポスト高度経済成長期、ポスト冷戦期の日本の諸課題(福祉国家の解体、新自由主義の進展、グローバル化の拡大がもたらすさまざまな矛盾)を、地域や周縁化された人びとの姿・声とともに積極的に描き出してきたことを明らかにすることができた。これらの成



図2 NNNドキュメントで放送された番組の一例

果は、『NNNドキュメントクロニクル(仮)』として、2019年に東京大学出版会より出版予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

① 丹羽美之、ドキュメンタリーとは、人間が生きるための闘いである、民放、査読無、553、2017、60-61

② 丹羽美之、記録というものは「読み人知らず」であってはいけない、民放、査読無、551、2017、56-57

③ 伊藤守、デジタルメディア時代における言論空間、マス・コミュニケーション研究、査読無、89、2016、21-43

④ 伊藤守、テレビ番組アーカイブを活用した映像研究の可能性：分析方法・手法の再検討に向けて、社会学評論、査読有、65(4)、2015、541-556

〔学会発表〕(計5件)

① 丹羽美之、NNNドキュメントのデジタルアーカイブ化とその利活用、日本映像学会、2018、東京工芸大学

② 丹羽美之、テレビ番組で見る戦後日本、放送ライブラリー公開セミナー「大学における映像アーカイブ活用と新たな展開」2017、上智大学

③ 丹羽美之、アーカイブがつなぐテレビの環、脚本アーカイブズシンポジウム2017「脚本アーカイブズ・デジタル活用の未来」2017、早稲田大学

④ 丹羽美之、NNNドキュメント共同研究について、NNNドキュメント共同研究発足記念シンポジウム「時代の目撃者：NNNドキュメントの45年」2015、東京大学

藤田 真文 (FUJITA, Mafumi)
法政大学・社会学部・教授
研究者番号：60229010

〔図書〕(計12件)

①丹羽美之・吉見俊哉 他、東京大学出版会、記録映画アーカイブ3 戦後史の切断面：公害・若者たちの叛乱・大阪万博、2018(近刊)、ページ数未定

②林香里、岩波書店、メディア不信：何が問われているのか、2017、256

③丹羽美之・伊藤守 他、NHK出版、テレビドキュメンタリーを創った人々、2016、510

④藤田真文 他、ミネルヴァ書房、メディアの卒論：テーマ・方法・実際 第2版、2016、274

⑤丹羽美之 他、岩波書店、ひとびとの精神史 万博と沖縄返還：1970年前後、2015、331

⑥西垣通・伊藤守 他、ミネルヴァ書房、よくわかる社会情報学、2015、217

⑦丹羽美之・吉見俊哉 他、東京大学出版会、記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成長へ：民主教育・東京オリンピック・原子力発電、2014、320

⑧武田徹・藤田真文・山田健太 他、三省堂、現代ジャーナリズム事典、2014、378

〔その他〕

(1)ホームページ

<http://media-journalism.org/project/nnn-document>

(2)報道関連情報

①ドキュメンタリー番組を学術利用、日本経済新聞、2016年1月16日朝刊文化面

②「NNNドキュメント」学術利用への試み(文化往来)、日本経済新聞、2015年10月22日朝刊文化面

6. 研究組織

(1)研究代表者

丹羽 美之 (NIWA, Yoshiyuki)
東京大学・大学院情報学環・准教授
研究者番号：00366824

(2)研究分担者

伊藤 守 (ITO, Mamoru)
早稲田大学・教育総合科学学術院・教授
研究者番号：30232474

林 香里 (HAYASHI, Kaori)
東京大学・大学院情報学環・教授
研究者番号：40292784